

＜教育課程の実施方針（カリキュラム・ポリシー）＞

【大学院】

<p>経済・ビジネス研究科</p>	<p>＜博士前期課程＞ 経済学専攻では、グローバル化、リージョナル化、情報化およびサービス化それぞれの現状を把握し、理論に基づく科学的分析を遂行する技能を学生に教授する。また、多様な資格取得を目指す学生のため、学部授業科目と連携したカリキュラムで教育する。 現代ビジネス専攻では、企業環境を意識して、ビジネスで競争優位を担うビジネスパーソン、マーケティング分野の専門的職業人、戦略的マーケティングにおけるIT活用人材の育成を目指す。また、多様な資格取得を目指す学生のため、学部授業科目と連携したカリキュラムで教育する。</p> <p>＜博士後期課程＞ 経済・ビジネス専攻の経済学領域「経済学分野」は、経済理論と応用経済学中心のカリキュラムで構成されており、学生は高度研究の指導を受けることができる。現代ビジネス領域の「ビジネス・会計分野」ではマーケティング論、流通情報論および財務会計など、現代ビジネス領域の「マネジメント分野」では、経営理論、国際経営システムおよび計量経営学などを中心にしたカリキュラムでそれぞれ構成されており、学生は高度研究の指導を受けることができる。</p>
<p>工学研究科</p>	<p>＜博士前期課程＞ 「機械システム分野」、「バイオリボティクス分野」、「電気情報技術分野」、「物質生命化学分野」、「土木デザイン分野」、「建築デザイン分野」の6つの研究分野のいずれか1つの研究分野を拠点としつつ、必要に応じて他の5研究分野における教育を受け、幅広く学識を身につけることのできるカリキュラム構成とする。また、地域社会および産業界の要請に対応するため、従来の研究開発能力の養成を目的とする「研究重視型」のプログラムに加え、主として高度な専門知識の獲得に重きを置く「学習重視型」のプログラムを設置する。</p> <p>＜博士後期課程＞ 高度な専門知識および高度な研究開発能力を養成するため、前期課程を構成する6研究分野を統合した産業技術デザイン分野を設置する。段階的に知識および能力を養成するため、1年次および2年次に各研究指導教員が担当する「特別演習」を配当し、3年次に研究成果をまとめて博士学位論文を作成するための「特別研究」を配当する。なお、本課程は昼夜開講制をとり、社会人に配慮した教育研究指導を行う。</p>
<p>芸術研究科</p>	<p>＜博士前期課程＞ 芸術の新しい課題に対応できる個性と感性および創造力を培い、多様な芸術領域で活躍できる人材の輩出を教育目標に、美術、デザイン、写真領域の必須科目として総合研究と応用演習、選択科目として芸術表現理論、特定演習、特殊演習、実践的な産学連携型プロジェクト等による超域演習で教育課程を編成している。</p> <p>＜博士後期課程＞ 21世紀の多様化する社会の要求に応えることのできる人材の輩出を教育目標に、造形表現専攻全般の共通科目と研究領域に応じた特別研究で教育課程を編成している。</p>
<p>国際文化研究科</p>	<p>＜博士前期課程＞ 日本・アジア文化、欧米文化、教育、臨床心理の諸研究を行う。世界や日本の思想・文芸・歴史・心理等に対する深い理解のみならず、語学力を含めたコミュニケーション能力なども身に付けさせる。各分野で目標として設定したキャリアの実現に向けて、体系的なカリキュラムを編成している。課程修了には、国際文化研究分野と教育学研究分野では30単位以上、臨床心理学研究分野では38単位以上を修得することが必要条件となる。</p> <p>＜博士後期課程＞ 国際文化、臨床心理学、教育学の各分野における専門的研究を行うカリキュラムを配置している。課程修了には、12単位以上を修得することが必要である。社会人学生等のために長期履修制度も設けており、履修機会の確保に取り組んでいる。</p>
<p>情報科学研究科</p>	<p>＜博士前期課程＞ 「社会と人間」を意識する、広い視野に立った高度な専門職業人および研究開発者を育成するため、学生自身の研究分野ならびに関連分野以外の内容も幅広く履修する教育カリキュラムを編成する。非情報系学部の出身者に対しては、学部で開講される授業科目の履修も認め、情報科学・情報技術の基礎から体系的に教育することを可能</p>

とする。また、遠隔授業や昼夜開講制を取り入れ、企業技術者や情報教育担当者などの社会人が継続して学べる機会を提供し、最先端の情報科学・技術を理解・応用できる人材を育成できるカリキュラムを編成する。

<博士後期課程>

高度な研究活動を自立的に行う人材を育成する。学生は1年次～3年次において各研究指導教員が担当する「情報科学特別研究Ⅰ」、「情報科学特別研究Ⅱ」、「情報科学特別研究Ⅲ」を履修し、博士学位取得を目指しての研究および学位論文作成を行う。なお、遠隔授業や昼夜開講制を取り入れ、社会人学生の事情に配慮した教育研究指導を行う。